

令和5年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和6年3月29日

学校法人 多摩川学園
認定こども園 多摩川幼稚園

1 本園の教育理念・目標

「おもしろいこといっぱい！」
「明るく やさしく たくましく」

2 本年度重点的に取り組む目標・計画

(保育・教育)

- (1) コロナ類型変更後の保育の充実
* 専門講師による体育指導の充実 (教育水準向上事業)
- (2) 保護者への情報発信における IT 化の推進

(職員の資質の向上)

- (1) 教職員の育成 (園内研修の充実と外部研修への参加)

(仕事の進め方)

- (1) 働き方の見直し (組織的な連携と IT 機材活用による情報共有と省力化)

3 評価項目の達成及び取り組み状況

(利用者調査集計結果)

詳細は別紙1 (利用者調査集計結果) のとおり

今年度は残念ながら回答率が 34.9% (前年度は 53.2%) と半数以下となっており、その事実をどう解釈するかも含めて、結果については慎重に検討する必要があると思われる。

結果は、18 の評価項目のうち、「はい」が 90% 以上が 11 項目 (前年は 7 項目)、80% 台が 6 項目 (前年は 8 項目)、70% 台が 1 項目 (前年は 2 項目)、50% 以下は無し (前年は 1 項目) となり、昨年度に比べさらに高い評価が得られた。

比較的評価が低かった項目等について

- (1) 給食について

昨年に比べて多少評価が下がるとともに、自由記述としても意見が出されている。「弁当箱

方式」のため、汁物を出せないなど献立に制約があるが、献立等については改善に努めるとともに、給食だより等を通じて保護者に対して給食や食育に関する情報発信を行った。

(2) 利用者の要望に対する対応

「はい」の回答が 85.8%（前年は 71.3%）、「いいえ」の回答は 1 名（前年は 6 名）と改善された。また、これまで外部の相談窓口を活用した事例はない。

(職員自己評価結果)

詳細は別紙 2（職員自己評価）のとおり

結果は、12 の評価項目のうち、「できている」と「だいたいできている」と肯定的な評価が 70%以上が 8 項目（前年は 6 項目）、50%台以下が 0（前年は 3 項目）と全体的に評価は上昇した。

(1) 行事と保護者への情報提供

肯定的な回答が減少しているが、行事についてはコロナ禍前から変更したものがあること、保護者への情報発信のペーパーレス化を推進している影響が考えられる。

(2) 効率の良い仕事の進め方

昨年から引き続き職員会議等を通じて促すとともに IT 機材の活用を推進してきており成果は出てきている。

4 総合的な評価結果（自己評価委員会 2月26日開催）

利用者調査の結果からは、昨年以上に多くの項目で高い評価を受けており、普段からの保護者とのコミュニケーションや情報発信の成果が出ていると感じられる。一方、給食に関しては相対的に評価が低いので、再度内容を精査し対応を行う必要がある。

職員の自己評価については、昨年と比較して評価は高くなっているが、評価の低かった項目については、さらに工夫することで改善する必要がある。

* 専門講師による体育指導の充実（教育水準向上事業）については、別紙「令和 5 年度教育水準向上事業 実績報告書」参照

5 今後取り組む課題

(保育・教育について)

(1) 給食について

「弁当箱方式」の制約の中で、食育の充実を含めて、献立、食べ方等について更なる工夫をする。また、そのような取り組みについて保護者に情報発信していく

(園運営について)

(1) 職員の情報共有

現在活用している職員間の情報共有ソフト等 IT の更なる活用も含めて、効果的にコミュニケーションができるような工夫をする

(2) 研修の充実

年度の研修計画を定め各自が勤務の都合に合わせて必要な研修に参加できるようにする。また、園内研修についても更なる充実を図る

6 学校関係者評価委員会の評価 (3月26日開催)

(1) 保護者代表からの評価

- ・保育に関しては、担任によるクラス毎の特性、色が有ってとても良い。さらに、それぞれの担任の得意な保育活動(例えば歌やダンス音遊び、制作、物作り等)の紹介も含めた情報発信もして欲しい。
- ・給食については、食材の安全性について注意していただきたい。また、さらに安全性を高めるためのオーガニック食への対応も検討していただきたい。
- ・保護者の多様な意見がもう少し届きやすくなるような方法を検討していただきたい。

(2) その他の学校関係者からの評価

- ・回答率が減少している。回答すること＝園との関係性と考え、回答数の増加と子どもたちのよりよい環境づくりを目指して、広報を通じて利用者からの声に対するお知らせなどを行うことで双方向の情報循環をし、利用者のニーズ把握や提供できる環境の確認に繋げてはどうか。
- ・利用者調査の結果では全体的な利用者満足度は昨年度比でも向上しており、特に評価項目の1については、ほぼ100%の利用者から高評価を受けていることから、日々の園の活動がしっかりしていることが伺える。
- ・全般的に改善されていると判断できる。特に、7. 安全対策 13. 子ども同士のトラブルへの対応、17. 利用者の不満や要望への対応について が改善されていることが窺える。
- ・提供される食事について、若干評価が下がっていることが気になる。給食全般を変えることは難しいですが、子どもや保護者に何か一つでも変わった、おいしくなったといってもらえるよう検討していただきたい。
- ・職員の自己評価についても、特に職員間の役割分担や連携などの組織としての部分が高評価となっており、職員全体が良いチームとして、教育・保育を実践していることがわかる。利用者からの高い評価も、この職員集団のチームワークによるものと思われる。
- ・通園バス関係の事故や様々な不適切保育などの事案が話題になっている昨今です。これらの事故や虐待を無くすために必要なのは、組織の風土が一番大切だと思いますので、今後もこの最高のチームワークで、素晴らしい教育・保育を継続して行っていただきたいです。
- ・今後、さらなる少子化を受け、園として体制の変化を行っていく大変な場面になるかと思う。変化に伴い、職員の皆さんも働き方や様々なスキルアップを要求されるでしょうが、子どもたち

が楽しく通園し、社会で生きていくための自己の確立や集団生活、ルールを身に着ける大切な場を【明るく やさしく たくましく】にある通り、今後も作ってほしい。

- (3) 専門講師による体育指導の充実（教育水準向上事業）については、別紙「令和5年度教育水準向上事業 実績報告書」参照